平成 30 年度 岡山市埋蔵文化財センター講座第 4 回

# 横穴式石室の世界

草原孝典

## 【講座の概要】

野山へハイキングに行った際にぽっかりとあいた石室を見たことがある人は少なくないと思います。それは 6 世紀後半の時期を中心に築かれた古墳の埋葬施設で、横穴式石室といいます。岡山市埋蔵文化財センターの背後の操山丘陵には 100 基を越える数が確認されています。横穴式石室とは朝鮮半島から伝わった埋葬形態で、古墳時代を前期、中期、後期と時期区分した後期古墳の典型といえます。北九州を除くと古墳時代前、中期の古墳の埋葬施設は、竪穴式石室や箱式石棺などの、一度埋葬するとかなり無理をしなけらば再度埋葬することのできないものでした。後期の古墳は、埋葬する部屋である玄室とそれに通じる羨道からなり、何度でも埋葬することができるものでした。そのため、『古事記』や『日本書紀』で描かれているイザナギ、イザナミの神話の黄泉の国は、横穴式石室の世界といえます。横穴式石室を発掘すると、黄泉の国で食事をとると黄泉の国の住人となる「黄泉戸喫（よもつへぐい）」を示すように、炊飯具も出土します。

後期古墳は、何度も埋葬が可能なことから、有力家族墓と考えられてきました。この時期には無人島や人里離れた山奥にも古墳が築かれていることから、塩生産や鉄生産などの手工業生産が盛んとなり、それが古墳に葬られる有力家族を中心に行われたと考えられました。後期古墳の時代は有力家族の台頭の時代といえます。一方、多くの横穴式石室が極めて狭い範囲に密集して築かれている場合があり、これを群集墳といいます。各古墳につながる墓道を復元し、それが規則的に配置されていることから、勝手気ままに古墳を営んだのではなく、大きさや配置などが身分表示に相当していると考えられました。

後期古墳に葬られている家族の実態については、人骨分析からすると、夫婦が同じ古墳に埋葬されていることはなかったようです。古墳時代前期から血縁関係のある者同士が同じ石室や棺おけに葬られており、夫婦のカタチは現在と異なっていたと考えられます。6 世紀後半から末の奈良県の見瀬（五条野）丸山古墳は、欽明天皇の陵墓と考えられており、日本一の大きさの石室には石棺が 2 基埋葬されています。これは欽明天皇と蘇我系の后である堅塩媛が合葬されたという説があります。この説が正しいとすると、夫婦合葬墓ということになります。しかし、こういった埋葬形態は、一般的な家族の姿を示しているのではなく、蘇我氏の権威向上のために行われた政治的セレモニーと考えられています。

## 【参考文献】

近藤義郎 1983 年『前方後円墳の時代』岩波書店

水野正好 1969「群集墳と古墳の終焉」『古代の日本 5　近畿』角川書店

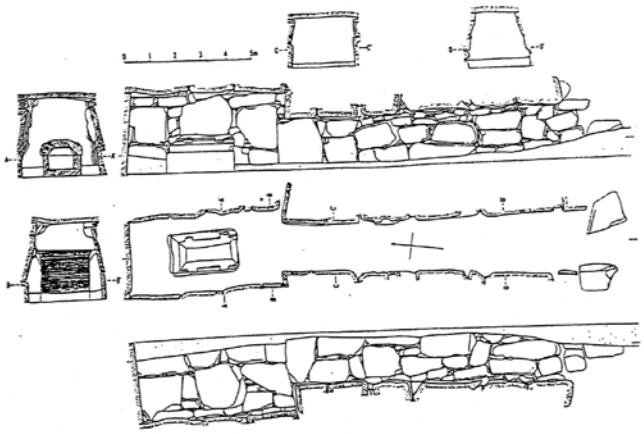


図３　牟佐大塚古墳

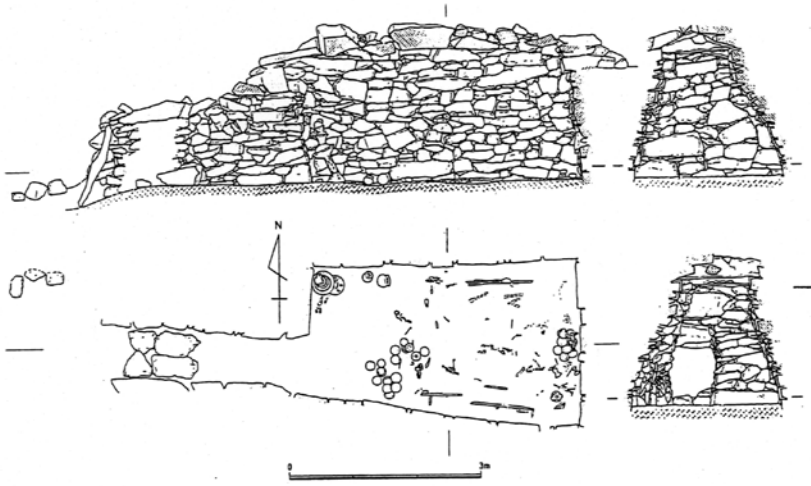
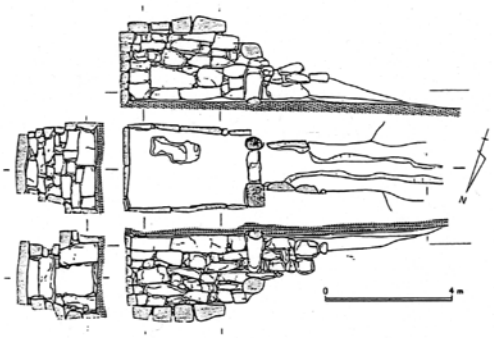


図 317　中宮１号墳　石室（S=1：60）

６世紀前半



６世紀中頃前半

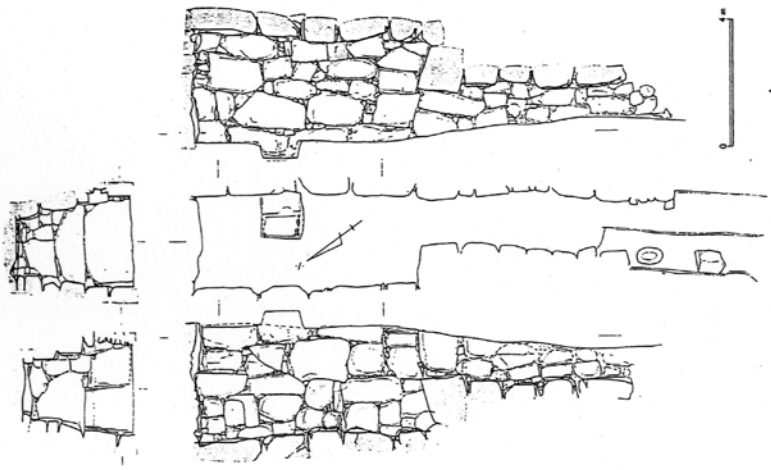
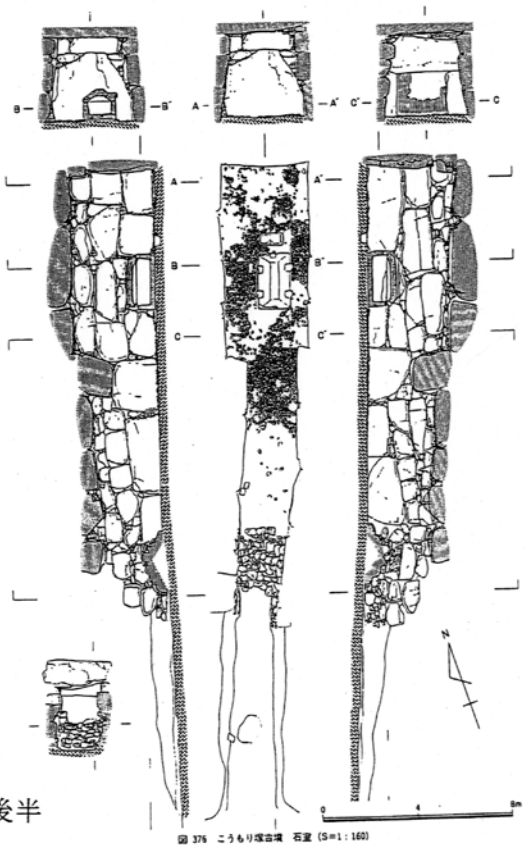


図173　B号切石墓（S=1：120）

６世紀中頃後半



６世紀後半

図 376　こうもり塚古墳　石室（S=1：160）

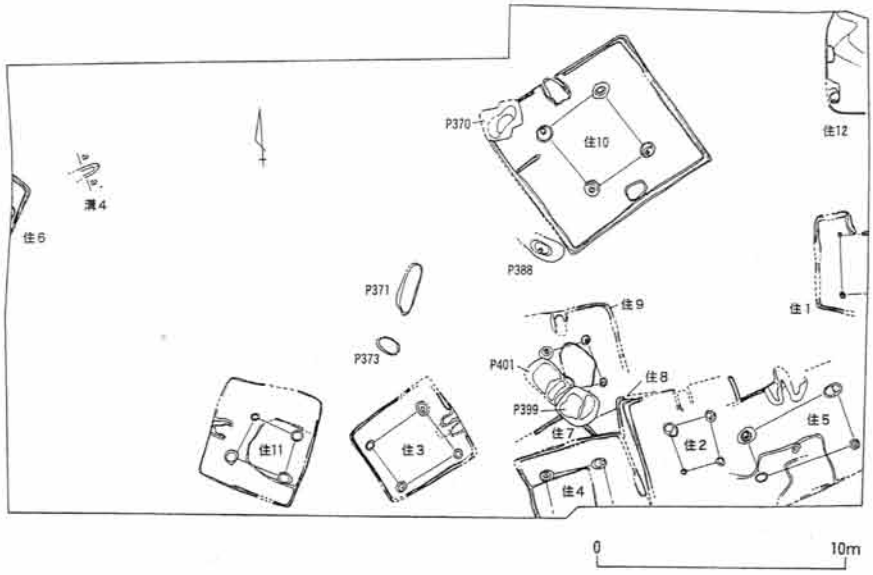



図１津島江道（岡北中学校）遺跡の古墳時代のムラ

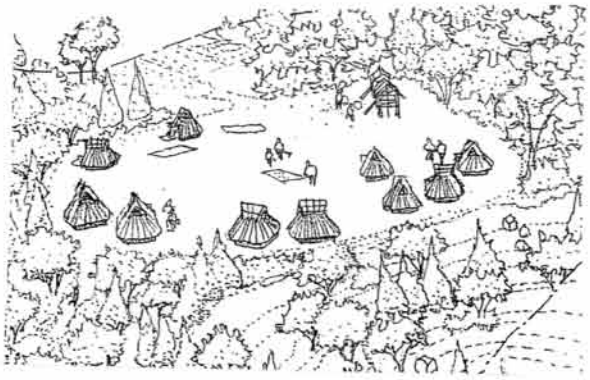


図２津島江道（岡北中学校）遺跡の古墳時代のムラのイメージ

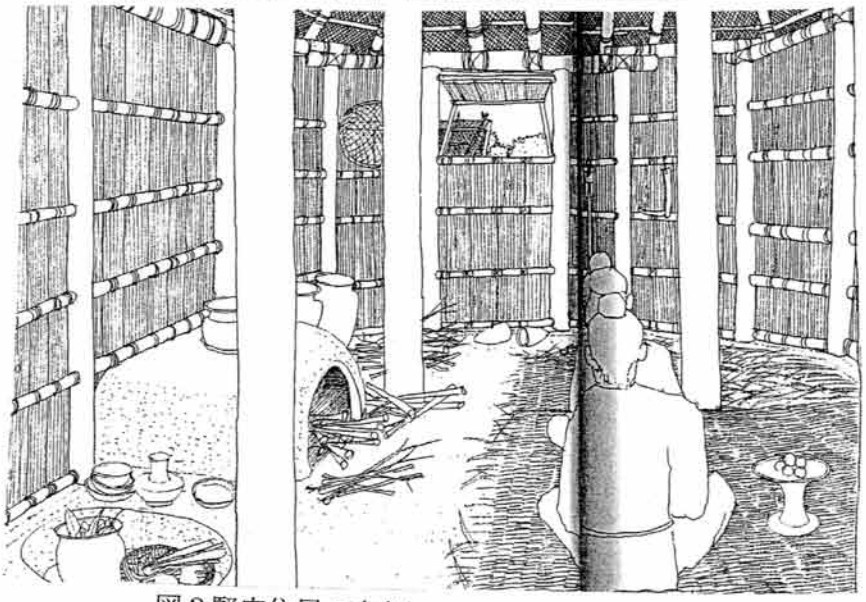
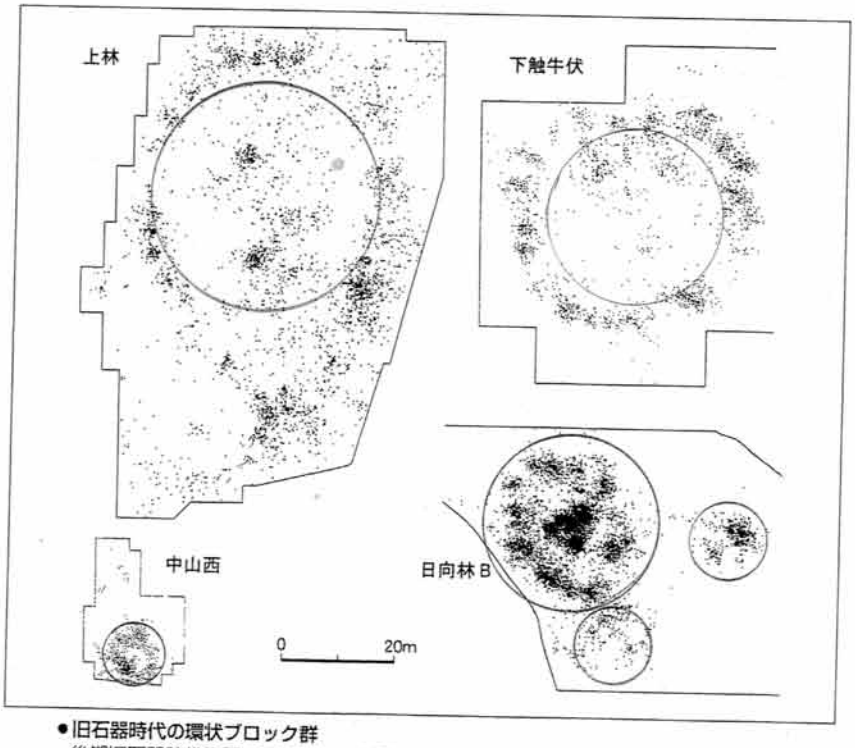
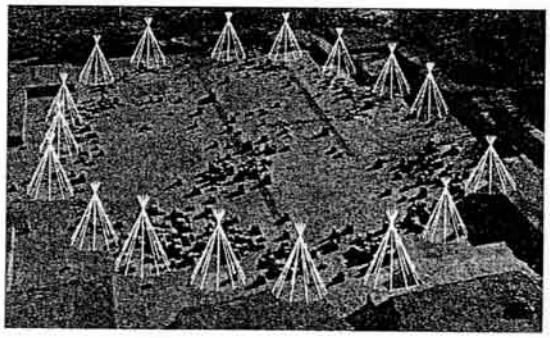


図３竪穴住居の内部




●旧石器時代の環状ブロック群
後期旧石器時代初頭の環状ブロック群の大きさには長径 80m から 10m ほどの変化がある。



環状ブロック群（千葉県池花南遺跡）

図４旧石器時代のムラ

（４万～１．５万年前：寒冷期）

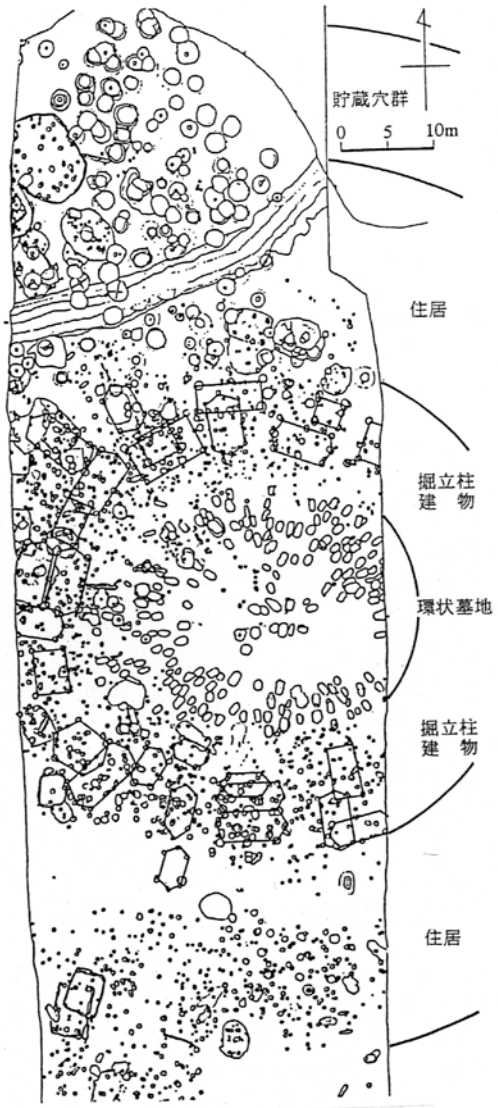
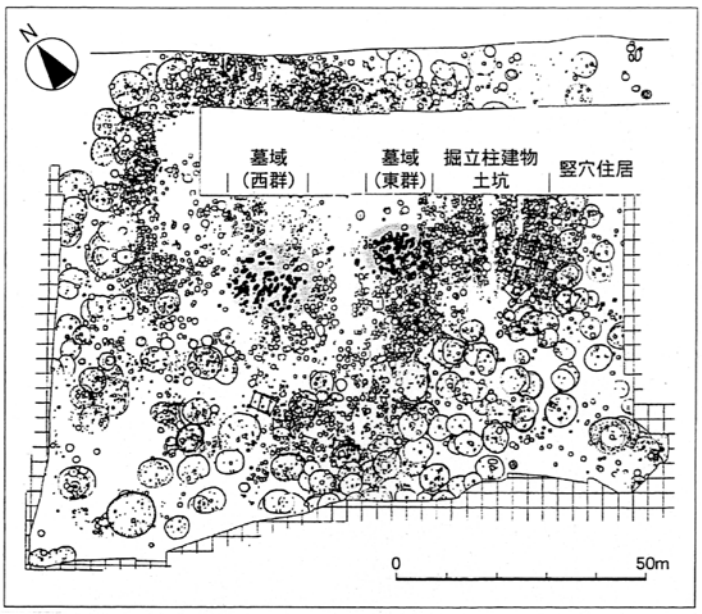



図５岩手県西田遺跡：

縄文時代の環状集落（ムラ）




●縄文時代の環状集落

図６青森県風張１遺跡：縄文時代の環状集落（ムラ）

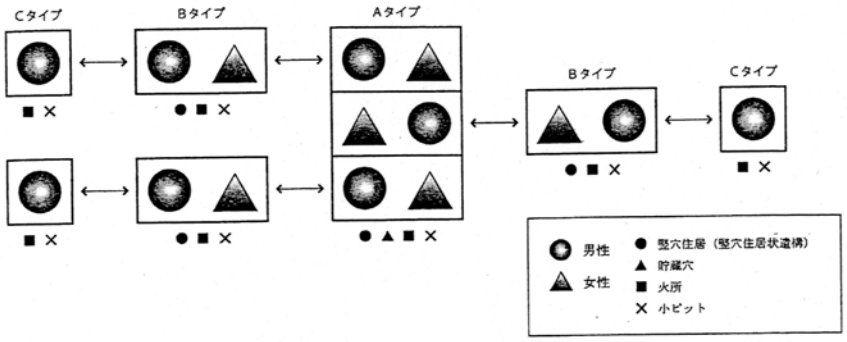



図７西日本の縄文時代のムラのイメージ

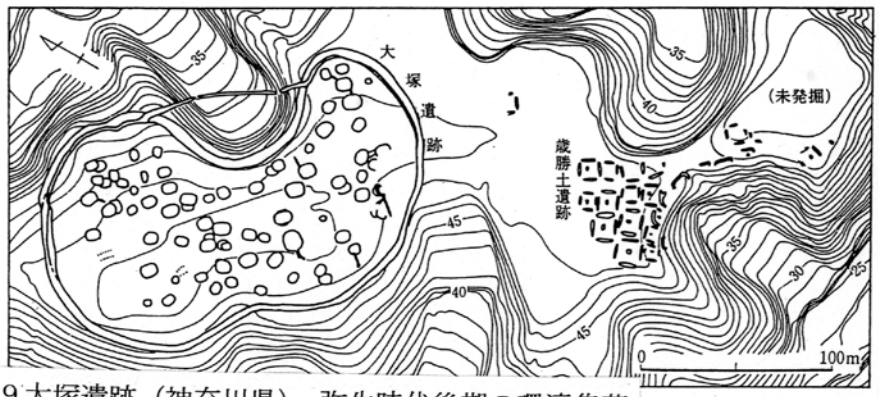



図９大塚遺跡（神奈川県）：弥生時代後期の環濠集落

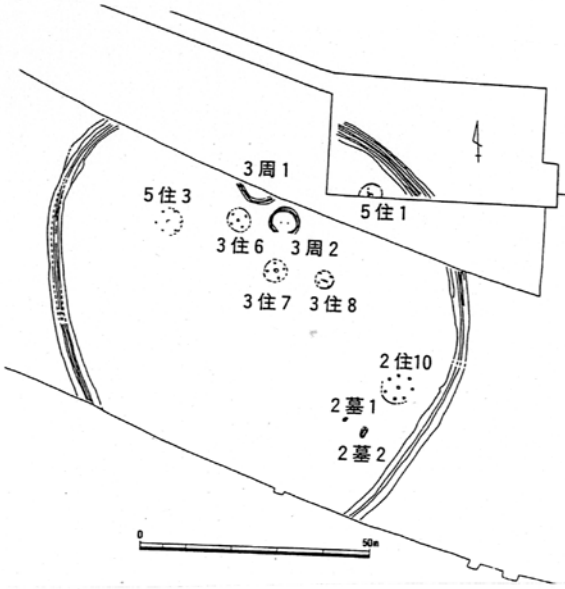



図８百間川沢田遺跡：弥生時代前期の環濠集落

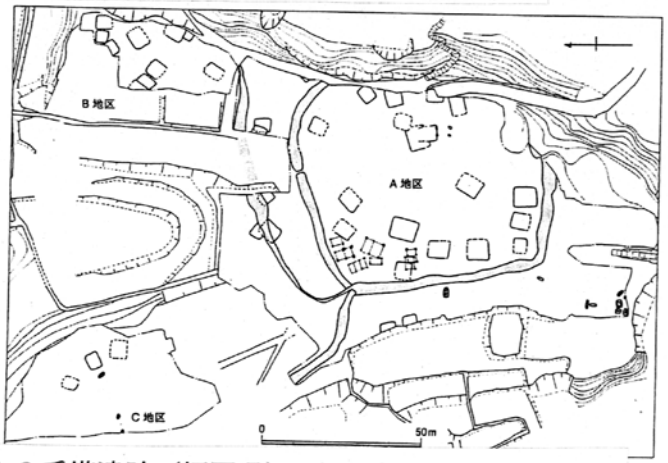



図１０千塔遺跡（福岡県）：弥生時代後期の環濠集落

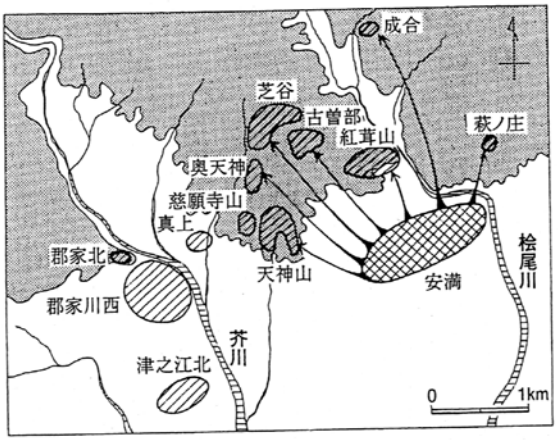



図１１安満遺跡（大阪府高槻市）：弥生時代後期の高地性集落

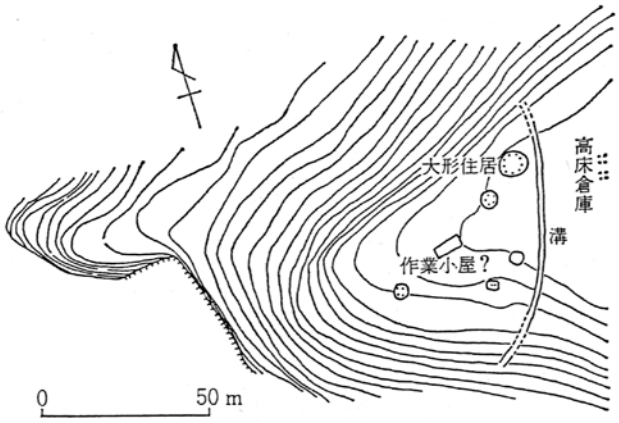



図１２沼遺跡（津山市）

単位集団→家父長制家族→？
古墳の発生→世襲王権の始まり→？

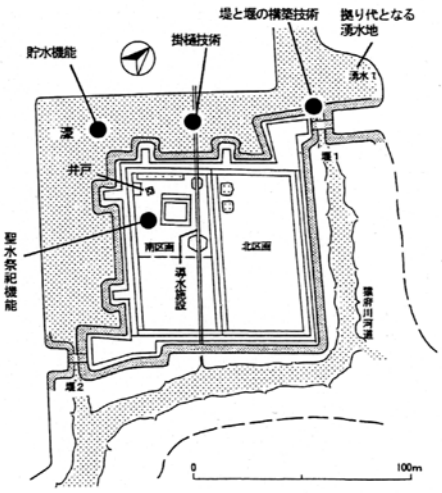
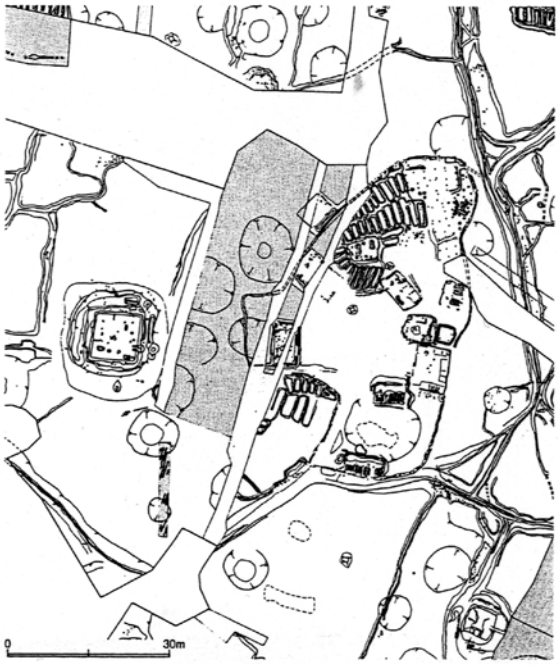



図１４　三ッ寺Ｉ遺跡



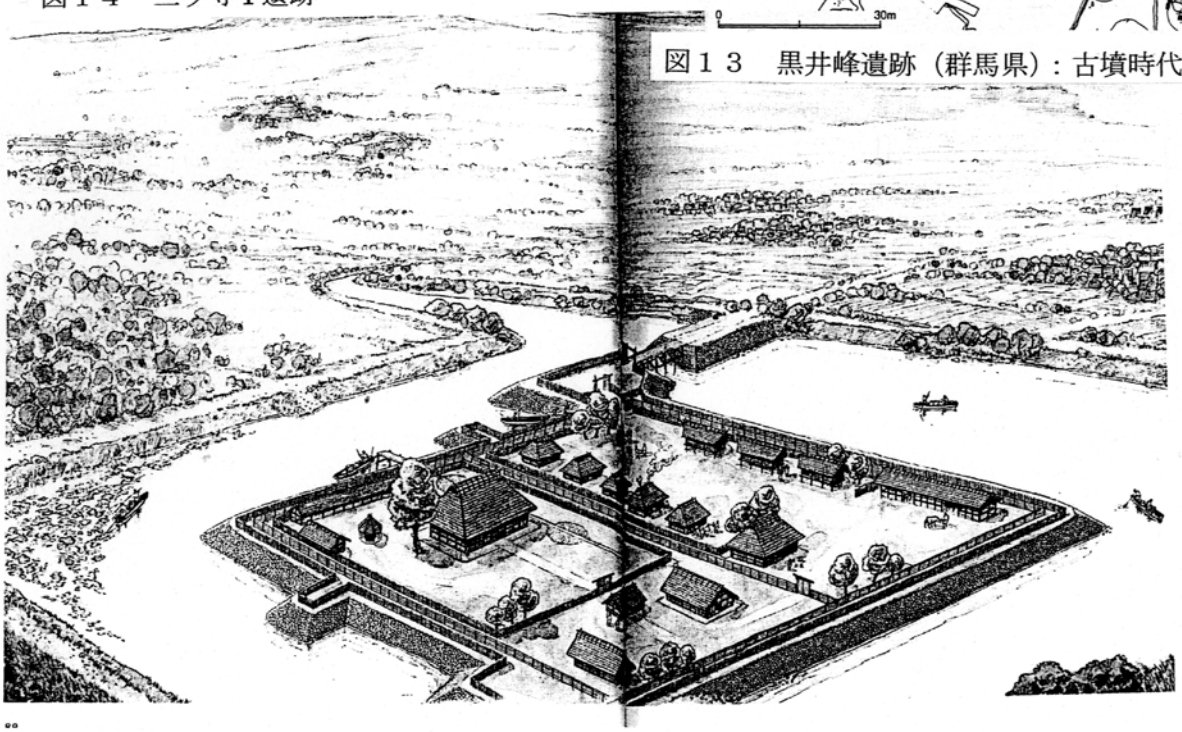


図１３　黒井峰遺跡（群馬県）：古墳時代のムラ